

第46回総合特別区域評価・調査検討会
議事要旨

日 時：令和元年9月18日（水）10:00～12:00

場 所：永田町合同庁舎 特別会議室

出席者：座長 安藤 光義 東京大学大学院農学生命科学研究科教授
秋山 弘子 東京大学高齢社会総合研究機構特任教授
玉沖 仁美 株式会社紡代表取締役
土屋 了介 公益財団法人ときわ会常盤病院顧問
安島 博幸 跡見学園女子大学観光コミュニティ学部教授
事務局：海堀 安喜 内閣府地方創生推進事務局長
森山 茂樹 内閣府地方創生推進事務局次長
飛田 章 内閣府地方創生推進事務局参事官
井上 卓己 内閣府地方創生推進事務局参事官
橋本 昌史 内閣府地方創生推進事務局参事官補佐

1. 開会

7月に着任した海堀事務局長から、総合特区の評価について委員に綿密に実施していただいていることに感謝申し上げる旨の挨拶があった。

平成31年4月1日付で委員が改選されたことから、座長の選出が行われ、互選により安藤光義委員が座長に選任された。

引き続き、安藤座長から座長代理として竹林幹雄委員が指名された。

2. 平成30年度評価結果のとりまとめについて

安藤座長から、本日の評価・調査検討会の評価資料は、ライフ・イノベーション分野、アジア拠点化・国際物流分野、観光立国・地域活性化（観光等）分野の3分野の総合特区が行った自己評価を元に各分野の専門家委員が総合特区の平成30年度の取組を評価し、その結果をとりまとめたものである旨の説明があった。

(1) ライフ・イノベーション分野の評価について

事務局から資料2-1に基づき説明を行った。委員から主に以下の発言があった。

- 全体として進捗している。多くの特区が社会実装の段階に来ており、今後は社会実装効果の評価が必要となってくる。また、規制の特例措置がマイナーな特例にとどまっている。イノベーションのきっかけとなるような大胆な規制緩和を考えていただきたい。

国際医療交流の拠点づくり「りんくうタウン・泉佐野市域」地域活性化総合特区（大阪府、泉佐野市）については、抜本的な見直しが必要と指摘してきたが、ほとんどなされていない。特区を続けるべきか否かの最終的判断は自治体にあるのか。

- （事務局）これまでに指定解除となった特区は全て特区指定自治体からの申請によるもの。今後の対応策については事務局から特区に問い合わせたい。
- 以前、現地調査に行くと、一生懸命に努力しているが数値が上がらないという状況だったため、目標を下方修正してはどうかと伝えたことがある。協議会においてこの特区で目指していることを現時点の状況で改めて整理して頂ければ、府や市の役割が明確になるのではないか。
- 第2期計画では、指標を焼き直しで設定しているところが多い。計画見直しの中で何をやりたいのかをはっきりして指標を設定しないとうやむやになってしまう。みえライフイノベーション総合特区（三重県）は、県が主導的に一生懸命にやっているが、町単位でやりたいことが明確に出ていないのではないか。
- 岡山型持続可能な社会経済モデル構築総合特区（AAAシティおかやま）（岡山市）については、高齢者がデイサービスから卒業できるようにカリキュラムを作り、実証して、ベンダーも育てるという当初の提案に非常に期待していたが、それがだんだん霞んできて体を動かすことが中心になっているように見える。なぜこうなってしまったのか。
- （事務局）同特区からは、平成30年春にデイサービスの質の評価を拡充する提案が出され、介護報酬改定の検証にも関与するという動きがある。
- 何がほしいか分からないとほしいものが得られないという問題は、ライフイノベーション分野だけでなく、他の分野でも生じてくる問題である。

（2）アジア拠点化・国際物流分野の評価について

事務局から資料3-1に基づき説明を行った。委員から主に以下の発言があった。

- さがみロボット産業特区（神奈川県）は、近隣の横浜・川崎に民間主導で産業が集積されている中で、県がよく企業誘致をコーディネートしてやっていると思う。
- 専門家所見でいくつか個別の注文がついているので、各特区に伝えて対策を考えてもらいたい。

（3）観光等分野の評価について。

事務局から資料4-1に基づき説明を行った。委員から主に以下の発言があった。

- 観光分野は、地域のビジョンと特区事業の関連性が低く評価が難しいが、今回は大分改善された。例えば、京都市地域活性化総合特区（京都市、京都府）では5,000万人の観光客に来訪してもらおうというビジョンに対して外国人料理人を日本料理店で

育てて国に帰す事業の受入れ実績が12人であるが、ビジョンの実現に向けて他にも多様な事業を進めていることが説明されるようになった。

評価指標は、社会情勢が変わっていく中で、最初に決めたものから変えざるを得なくなっている。例えば、京都ではオーバーツーリズムが課題になっており、観光客数を増やすのではなく、質を高めて消費単価を上げる方向に向かっている。長年使ってきた評価指標であっても見直しは必要である。

千年の草原の継承と創造的活用総合特区（阿蘇市他）については、特区事業が少なく評価はあまりよくないが、方向性としてはとてもよいところもあった。

国際医療交流の拠点づくり「りんくうタウン・泉佐野市域」地域活性化総合特区については、医療と観光というところに無理があったと思う。医療を中心に無理やり観光をつけた印象を受ける。ある程度は改善されているが、観光客がいるのか疑問がある。先ほど出たように、医療の方でも課題があるとすれば、観光を強くする必要はある。

- 観光分野では、明確に根拠になる数字は、どうしても入込み客数にならざるを得ないが、情勢の変化でインバウンドが激減しても、事業の成果は上がっているということもあり、我々も評価に悩まされるところがある。

京都市地域活性化総合特区は、外国人料理人が本国に戻られた後にどのような影響を発揮してくれているのかが測りにくい。そのため、本国で京料理を普及しようとしている人が数名でもいることは素晴らしいという点を捉えて評価している状況。

国際医療交流の拠点づくり「りんくうタウン・泉佐野市域」地域活性化総合特区については、大阪府の取組である医療と泉佐野市という立地している自治体の観光をリンクさせているが、その相乗効果が見えづらく違和感があり、それが今まで残ってきている。泉州タオルや地元の体験プログラムなど泉佐野市単体の観光資源で工夫しながら前進しているという印象もあるが、大阪府との連携はあまり見えない。または並行して進める計画なのか。

千年の草原の継承と創造的活用総合特区は、震災の影響に加え、評価指標の実績値の集計が間に合わなかった関係で、本当はもう少し評価が高いかもしれない。

- （事務局）国際医療交流の拠点づくり「りんくうタウン・泉佐野市域」地域活性化総合特区については、事務局から本日のご意見を伝えて意見交換をしたい。
- りんくうタウンというと、木更津を思い浮かべるが、木更津はアウトレットや温泉宿の開発で観光客が増えている。大阪府も医療ばかりではなく観光を強化すればよいのではないか。そのような工夫をするとよいのではないか。

3. アジア No.1 航空宇宙産業クラスター形成特区の区域変更について

事務局から資料5に基づき説明を行った。委員から意見はなく了承された。